

③① 身近の自然を楽しむ 夏空の下の生きものがたり (1) :昆虫

Enjoy the surrounding nature: Creatures under the summer sky (1): Insects
8/23/2023

今号は、植物ではなく今年の夏、芦花公園内で出会った動物 (No.31では昆虫、No.32では人間以外の生き物) を特集します。

今年の夏は異常な天気が続いており、梅雨の最中でありながら7月下旬になるまで空梅雨状態で30℃を超える日が続いていたため、いつ梅雨が明けたのか判らなかった。しかし、7/22の朝は白い雲が空全体に広がり爽やかであったが、気象庁はこの日が東京の梅雨明けと後追いで発表。この日以後は猛暑日が続き、芦花公園内のセミの鳴き声が日に日に多く強くなり、今も例年以上の夏日が続いている。なお、8月半ばには青空に積乱雲が浮かび、いろいろな形になるので想像力を刺激する。例えば私は、8月半ばの雲から「ノアの箱舟」を想像した。皆さんも子どものように想像してみてください。

さて本題に、先ず**セミ (蟬)** : 例年のように**アブラゼミ**の羽化が園内で観察でき、**ニイゼミ**、**ミンミンゼミ**の鳴き声が響木渡っている。その様子は、羽化後に木の幹や葉に残される抜け殻(**空ゼミ**)の数として確認できる。朝のラジオ体操仲間は、空ゼミを眼に効く漢方薬用に収集している一夫人に協力。その数は、30日近くで1000匹超。

その他にも**多様な昆虫**に出遭える。三角頭をもたげて獲物に向かう**カマキリ**、夢と幸運を呼ぶという**七色テントウムシ**、そのはるか上を行く**22個の斑点を背負う外来テントウムシ** (和名なし)に出遭った。紐で縛って飛ばして遊んだ**カナブン**や道端を這う**蟻 (アリ)**はお馴染みだが、虫好きでなければ目もくれない虫たちにも出遭った。

トンボの殿様**オニヤンマ**が草むらで羽を休めていた。**赤とんぼ**が、秋になる前から青草の上方を飛び交っていた。**3種のハチ (蜂)**が園内を飛来していた。花の丘のラベンダーの花から蜜を集めていた**クマバチ**と**ミツバチ (蜜蜂)**。そして今年のサプライズ：サワラの木の根に群れをなしていた**蜜蜂の大群**。女王蜂が木の根の透き間に卵を産んでいるに違いない。そっと観察を続けたい。獰猛さで知られている**スズメバチ (雀蜂)**が、羽化したばかりのセミを襲っている現場に出会った。自然は残酷なのか？自然の食物連鎖か？ムシできない現実だ。

蝶と蛾 : 豹紋の羽を持つ**ミドリヒョウモン**、蜆(シジミ)のような模様の小型の蝶**ヤマトシジミ (大和蜆蝶)**。雄は明るい水色のきれいな羽だが、雌は黒色っぽい地味な翅色である事を初めて知った。ガ(蛾)には、蝶と違って親しみを感じない人が多いのではないか？鱗粉(りんぷん)が皮膚に付くと痒くなる、時には毒性があって腫れる、と子どもの頃私も教えられていた。しかし、高校時代、夜間に蛾を採集する活動に参加してから考えが変わった。注意すべき毒蛾は手で捕まえないが、多種多様な蛾の採集の楽しさを知ったのだ。公園で出会った**3種の蛾**はとてもユニークな羽の形と色合いで魅力的だ。